

泊発電所 3 号炉
設置許可基準規則への適合状況について
第 6 条
外部からの衝撃による損傷の防止（その他外部事象）

令和 5 年 4 月 28 日
北海道電力株式会社

本資料中の [〇〇]（記載例：[6条（自然）-〇]）は、当該記載の抜粋元として、まとめ資料のページ番号を示している。

【本日の説明事項】

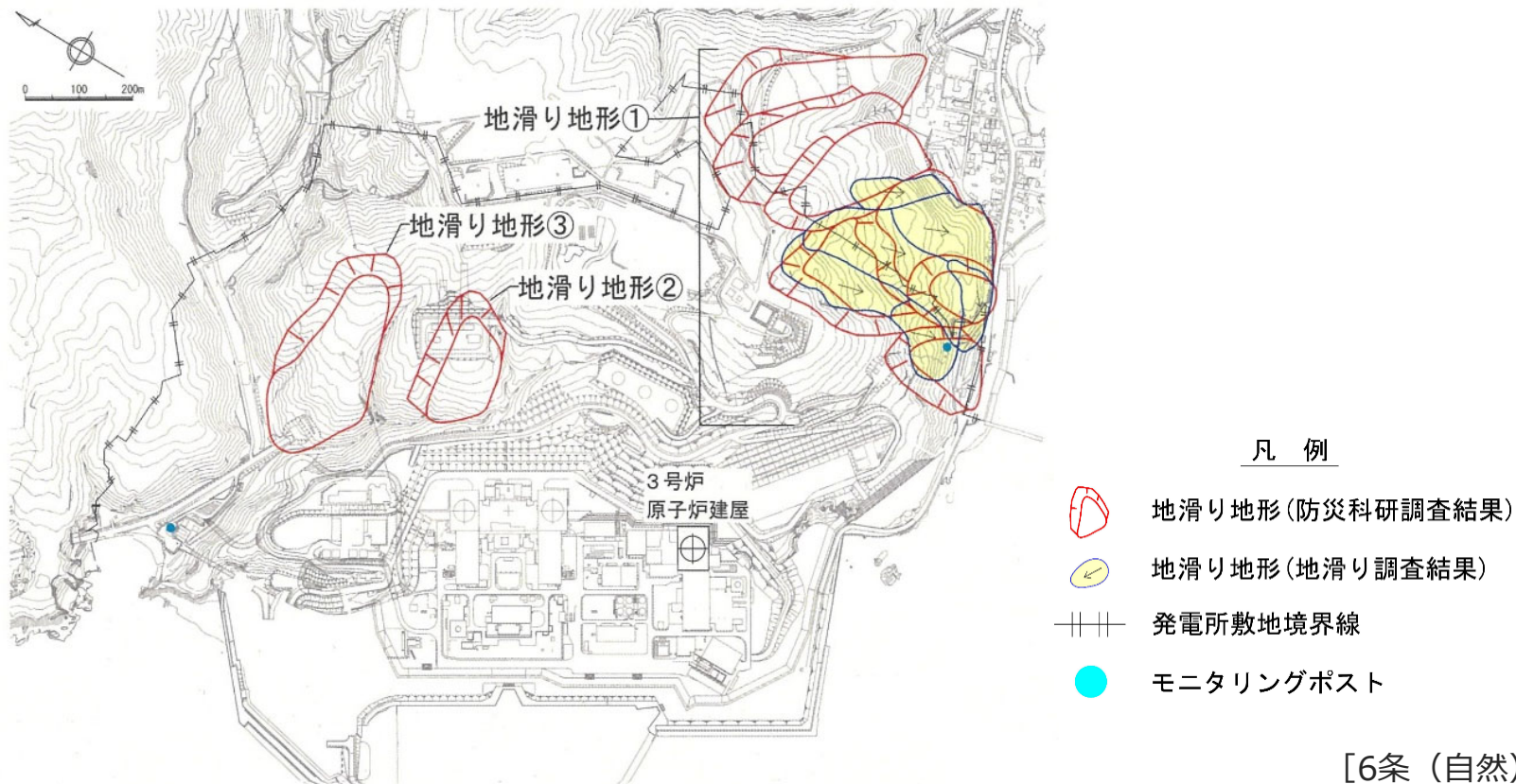
- 2023年3月30日 第1130回審査会合において、現地調査内容の一部を説明し調査結果取りまとめ中としていた地滑りについて、調査結果を取りまとめたので説明する。

第1130回審査会合資料 2 - 5 - 1（抜粋）

自然現象	設計基準値	設計基準設定の考え方	影響評価及び対策の概要
風 (台風)	36m/s	建築基準法に定める泊村（古宇郡）における基準風速36m/s（10分平均）と過去の観測記録の既往最大値27.9m/s（小樽特別地域気象観測所）を比較し36m/sに設定する。	安全施設について、風速36m/sの風荷重に対し、安全機能が損なわれないことを確認した。
凍結	-19.0℃	過去の観測記録の既往最大値（-18.0℃）を踏まえ、既設置変更許可の値に設定する。	安全施設について、凍結（低温：-19.0℃）に対して凍結防止等の対策を行うことで安全機能が損なわれないことを確認した。
積雪	189cm	建築基準法に定める垂直積雪量150cm（泊村）と過去の観測記録189cmを比較し189cmに設定する。	安全施設について、積雪量189cmによる影響に対して、安全機能が損なわれないことを確認した。
地滑り	-	空中写真判読、公刊の地滑りに関する知見等を確認する。	文献、地質調査結果を踏まえ、別途ご説明する。

1. 自然現象に対する影響評価及び対策の検討 地滑り (1 / 2)

➤ 地滑りに関する調査結果及び影響評価



第3-3図 泊発電所周辺の地滑り地形及び対象施設 (安全施設) 位置図

- 地滑り地形①の一部 (第3-3図の黄色部) は、地形判読及び現地調査の結果、地滑りを示唆する地形的特徴が認められることから、地滑り地形と判断される。
- この範囲には安全施設であるモニタリングポスト (安全評価上期待していないクラス3設備) があるが、当該モニタリングポストが損傷したとしても、可搬型モニタリングポストによって代替可能であるため、安全機能を損なわない。
- 地滑り地形②及び③は、地形判読及び現地調査の結果、地滑りを示唆する地形的特徴は認められない。

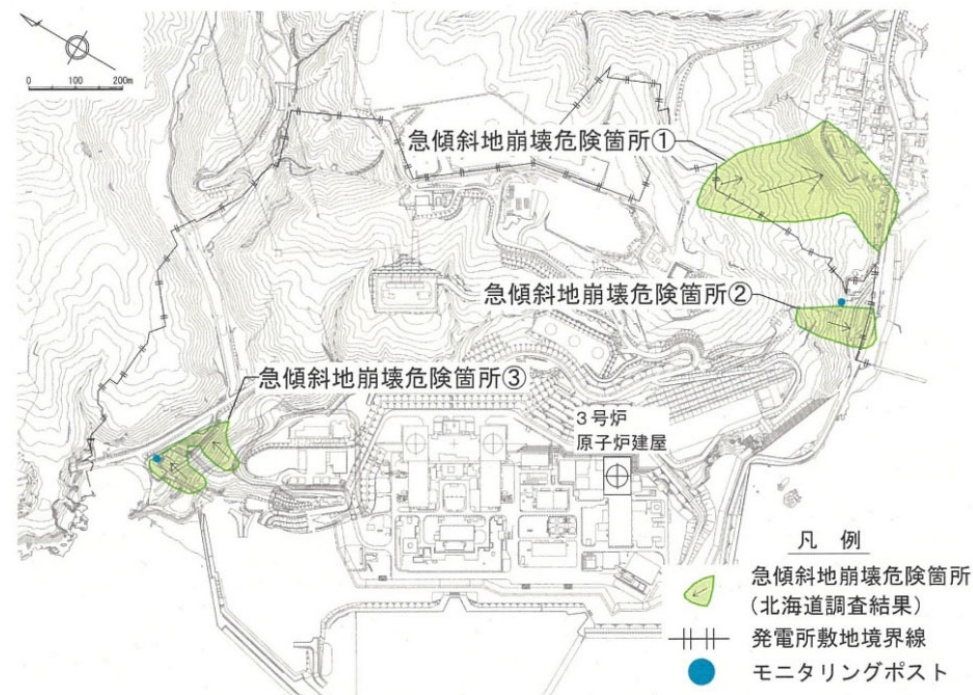
1. 自然現象に対する影響評価及び対策の検討 地滑り (2 / 2)

▶ 土石流及び急傾斜地の崩壊に関する調査結果及び影響評価



第3-4図 泊発電所周辺における
土石流危険区域位置図

[6条(自然)-別1-27]



第3-5図 泊発電所周辺の急傾斜地崩壊危険箇所
及び対象施設(安全施設)位置図

[6条(自然)-別1-28]

- 土石流危険区域及び土石流危険渓流には安全施設は存在しない。
- 急傾斜地崩壊危険箇所①には安全施設は存在しない。
- 急傾斜地崩壊危険箇所②及び③には安全施設であるモニタリングポスト(安全評価上期待していないクラス3設備)があるが、当該モニタリングポストが損傷したとしても、可搬型モニタリングポストによって代替可能であるため、安全機能を損なわない。

▶ まとめ

安全施設について、地滑り、土石流及び急傾斜地の崩壊に対し、安全機能が損なわれないことを確認した。